



発行所 全国曹洞宗青年会 千105 東京都港区芝 2-5-2 曹洞宗宗務庁内 発行責任者 伊藤浩宣 TEL.03-454-541190

青年僧侶のエネルギーを結集しよう 社会的価値ある活動をしよう 青年僧侶の自覚を促そう 地域における活動の連携を深めよう

全国リレー托鉢実施中!

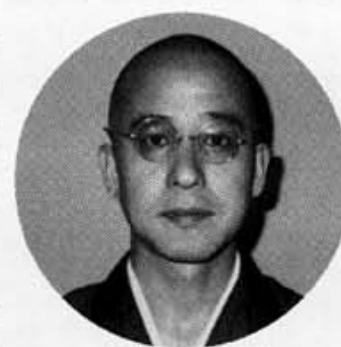
十月一日 鹿児島をスタート

全国リレー托鉢は十月一日に九州の鹿児島をスタートした。福昌寺様(富永圓俊師)の御紹介で東邦生命鹿児島支社の御協力を得、無事大成功の内に終ることが出来た。この日はとても暑く、真夏を思わせる日差しで、流石南国鹿児島らしい一日であった。(参加記者)



この事業を執行するに当たり、理事・評議員各位をはじめ各方面の方々の貴重で時には辛辣なご意見を拝聴致しました。それらの中で特に議論が集中した案件が大きく分けて二つ有りました。一つは「托鉢の浄財の使用目的」に関するものでした。浄財を集める為の托鉢ではないにしろ、喜捨された金銭はどうするかという問いです。この素朴な疑問が何故論争にまで発展していったかというのは、スリランカに大乘寺院を建立する援助金に使用したいという強い要望が執行部の中にあり、理事会・評議員会を含む討議の結果、時機相応でないとして保留になった経緯があり、浄財使用に

会員諸兄に於かれましては益々ご清祥にて曹青活動にご活躍の事と拝察申し上げます。さて十月一日より、約二カ月間にわたる「全国リレー托鉢」が九州の鹿児島曹青からスタート致しました。この事業は其々の宗侶が各地区で展開されている。「托鉢」を各地区曹青諸兄の手により、恰も聖火のリレーの如く日本全国を横断することです。我ら青年宗侶の「自らの行と仏法興隆の実践活動」という共通の願いを広く全国に示すだけでなく、これを礎として廿一世紀に向かつての新たな全曹青活動の在り方を模索するテーマになる事を期待しております。



事業研修委員長 村田 和彦

目次

全国リレー托鉢..... 1
岡山加盟・大会案内・平成三年暦..... 2
四国曹青・研修..... 3
「禅へのいざない」・我が曹青を語る..... 4、5
尼僧団便り..... 6
意識調査報告..... 7、8

関しては、後の理事・評議員会に於いて討議、決議する事になりました。もう一つは「何故リレー托鉢なのか」という趣旨に関する疑問でした。「托鉢」は其々の御自坊で、或いは各単位曹青会の事業として会員諸兄が永年取り組まれ恒例の行事として厳修されておられる修行であります。それを何故今更曹青の事業として、新たに托鉢リレーをしなければならぬのかという御意見でした。述べるまでもなく度重なる会議の中でこの件に関しての趣旨説明を致し、ご承認を戴きましたが、全曹青役員末席を汚す者として一言添えさせて戴きたい事があります。この「全国リレー托鉢」は、伊藤会長が第八期会長に就任されるに当たり、是非とも取り組みたい第一の事業でありました。自らの情熱を注ぎ込む指針を持たぬ者は組織の長とはなれないのは周知の事実です。何卒、我ら全曹青会長の念頭の事業である、この「全国リレー托鉢」を無事円成させて戴く為、会員諸兄の暖かい御支援と慈悲深い御法愛を衷心より切願致します。

全国の曹青会員の親睦交流と、より一層の連帯を深める機会として曹青会員一人でも多くのご参加を心よりお待ちしております。尚、本大会が会場の都合で全国リレー托鉢の実施期間中に開催しなければならず皆様にご迷惑をおかけします事を切にお詫び申し上げます。ご理解を賜りたくよろしくお願い申し上げます。詳細は次の通りです。

開催日は日本シリーズの予備日です。十月二十九、三十、三十一日の三日間は日本シリーズの予備日(西武球場のゲームが雨天順延、或いは引き分けの場合にこの日を使用)で、最悪の場合(西武球場が雨天の為三日間ゲーム中止、又は引き分け三ゲーム、或いはその二つの組合せ)大会中止をせざるをえませんが、その三日間以外は平成三年三月まで予約があり契約不可能です。大会中止の場合、即座に電話連絡で通知致します。運を人に任すのみです。

東京ドーム

全国

ソフトボール大会

開催近し

去る九月三日宗務庁研修道場にて理事会・評議員会にて御審議、御了承されました通り、全国ソフトボール大会を平成二年十月三十一日(木)午前九時三十分から午後四時五十分までの約七時間、東京ドームにて開催致します。

合掌

破草鞋

シチュエーション、アイデンティティ、コンセプト、トレンド、アイ・コンセプト、あなたはこの言葉がすべてわかりますか。最近私共のまわりに、やたらカタカナが氾濫している様に思う。冒頭で述べた五つの言葉にしても新聞やテレビで日常茶飯事に使われている。日本語で表現するよりも、格好良く、知的に感じさせるせいであろうか、若者の間で特に流行している様に思う。驚いたことには会社の名前までも、どんどんカタカナ化している。あなたのまわりでもきっとあるに違いない。山田八百屋店↓フレッシユヤマダ。佐藤自動車↓サトウ。鈴木家具店↓ファンシースズキ。(店名は架空)一体何を売っているのか、何屋なのか、さっぱりわからない店名が増えてきている。若者をねらったの改名だと思っただが.....

日本語の乱れと云えばワープロの普及もあるように思える。「人事移動」「路地物」「豪華盤」「高級指向」「野性動物」「信仰宗教」変換ミスだらうが、思わずそのまま読み過ぎてしまうところがある。誤字、あて字、新造語に加えて、ワープロの変換ミスの登場が、日本語の乱れに拍車を掛けているように思う。あるガイドさんの説明に「このあたりが有名なパンパ(万葉)の里で、昔はこのへんにサテン(茶店)が並んでいたそうです」とあった。活字離れの影響も心配である。

カタカナ化が悪いというのではない、ワープロも必要である。しかし正しい日本語を認識し、日本語の美しさを理解した上で使用してほしいものである。右の変換ミスがわからないでは困る。移↓異路↓露、盤↓版、指↓志、性↓生、信仰↓新興。

合掌

岡山加盟!

瀬戸内より潮の香りをのせて

岡山県曹洞宗青年会

会長 逸見良安

私達岡山曹青は、発足は全国曹青がでると同時に結成されました。比較的早くから、しかも積極的な活動を当初は行なっていました。会員の高令化と新入会員の不足、活動のなさが原因で長い間開店休業の状態でありました。初代柴口成浩会長(現大通寺住職)二代福井知宏会長(現化生寺住職)三代土本祥善会長(現吉祥寺住職)と三代までは順調に活動もし、大きな成果をあげてまいりました。たとえば良寛墨蹟チャリティショー、フィリピン戦死者慰霊など多くの活動を先輩会長のもとで行なってきた。平成元年になりまして、何とか岡山曹青をついでもらいたいという前土本会長の懇請により、若年僧侶たちが集いここに何とか引き継ぐことができました。平成二年になり、一月に再度集まり、会長候補を私にということになり、本当に驚きやらとまどいで一時はやれるかと

心配になってまいりました。実は私も四十才になって、本来ならば青年会をはずれる年齢には達してしまいましたが、今までやってこられた会長さんに申し分けないと思ひ、引き受けることにしました。任期は二年ですが、私の出来る範囲でやっいていくつもりであります。

会員は現在十五名程度ですが、徐々に会員の方の熱心な勧誘により増えつつあります。私が最年長ということですが、他の会員たちは若く、活動力がありますので今後がとて楽しみであります。また会員各位はそれぞれユニークな経歴を持つた方が多いので、それを生かした活動が出来るものと期待しております。

岡山県の寺院は、一般的に学校や役所その他一般企業に勤務される住職方が大変多く、他の曹洞宗寺院の多いところでは不思議に思われるかもしれません。その為会合といえ、土曜日の午後から夕方というように、殆んどウィークデーには集合が出来ない状態です。私自身もその例に洩れず学校に勤務しております。しかし、青年僧侶には勤務なしで、本来

のお寺の仕事に専念されている方が増加してまいりました。とても貴い、素晴らしい事だと思っております。

現在岡山曹青では、月一回法式研修を会場持ち回りで行なっております。この四月から三回おこなわれました。また個人活動として老人ホーム慰問をされている会員もおられます。やりたい活動は山ほどあるのですが、まずやれるところを地道に努力していこうではないかというところで、まず法式研修をしながら、会員を増やしていこうではないかということになっております。

年末には岡山曹青として歳末助け合いのチャリティ鉢を計画しております。今まで長い間全国曹青に御無沙汰しておりましたが、今年度から新たな気持ちで更に出発しようと思っております。全国曹洞宗青年会の皆さん、今後ともよろしくお願い致します。

平成三年カレンダー

福島曹青

福島曹青(会長秋山孝雄君)では平成三年禪の暦「小池華宗作品集」を制作した。

カレンダーに描かれた禅画は福島県田島町徳昌寺住職神田良統老師の協力により、新潟県五泉市在住の小池華宗画伯によるものである。

全頁フルカラー印刷。縦五十三cm、横三十八cmの大判七枚であり、友引・大安などの他に、年間宗門行事が加えられている。

問い合わせ

〒956 福島県会津若松市材木町10-33
秀長寺内
カレンダー委員会事務局
委員長 遠藤龍弘
TEL 0242(27)4935

三重曹青

三重曹青(会長河村英樹君)は本年で六年目のカレンダー「禅僧の筆痕」を制作した。

表紙を梅田信隆管長現下の御芳墨で飾っていただき、宗門の代表的な老師方の筆痕を特殊印刷で復元したものである。筆痕については、丁寧な解説もついており、曹洞宗仏事暦もついている。各筆痕は和紙にて印刷されているので、取りはずして本表装し、掛軸として再度楽しめるようになっております。

問い合わせ
〒03 三重県名賀郡青山町霧生 2559
158 天照寺内
カレンダー編集委員会
委員長 朝日楷道
TEL 05955-4-1755
FAX 05955-4-1712

第十二回中国曹青

広島大会

日 十一月二十七日〜二十八日
場所 三次市十日市町
「三次ロイヤルホテル」

連絡先 広島県庄原市本村町二五六一
岳音寺内

〒727-06

広島県曹洞宗青年会

TEL 08247 8-2504

広報委員会からのお願い

求む/全国リレー鉢の写真

広報委員会では現在進行中であります。全国リレー鉢の写真を募集しております。自らの「行」として、又、法服を身につけ、街に出ることにより、青年宗侶としての自覚を促すことを最大の目的として参加していただいた全国四千余名の会員諸兄の一人でも多くの写真を集め、次号(七十号)の「曹青通信」に掲載したいと思ひます。

出来れば全団体を網羅し、全ての写真を掲載したいと考えております。ここに会員諸兄の御協力をお願いするものであります。なお印刷の都合上切は十一月末日とさせていただきます。

「曹青通信」郵送用全曹青新リストについて

毎回、全曹青に郵送しております「曹青通信」の宛名ラベルが、本庁のコンピュータに入力されておりましたが、今までのリストは、かなり古いもので、寺籍番号も入っておらず、曹青ごとにランダムに並べたものでした。従いまして、新旧の入れ替えに大変な時間を費さなければなりません。そこで今回、本年三月に発行されました新名簿を元に、本部役員、本庁関係者の協力を得、寺籍番号を含めた新リストを作成致しました。今号より、これを使用致しますが、訂正箇所や新旧の入れ替えがございましたら、訂正箇所を明記の上、左記まで御連絡いただければ幸甚に存じます。

問い合わせ
〒03 三重県名賀郡青山町霧生 2559
158 天照寺内
カレンダー編集委員会
委員長 朝日楷道
TEL 05955-4-1755
FAX 05955-4-1712

墓石 記念碑

静岡県経済連指定
造園・資材・灯籠
建築石材張石工事



石のヒウガ

(有)平賀石材工業所

本店工場 静岡県磐田郡佐久間町川合922 ☎(0539)65-1232代 FAX (0539)65-0921
 浜北営業所 浜北市於呂1377の5 ☎(05358)8-7503
 豊川インター支店 豊川市麻生田町中通り44の4 ☎(05338)4-7854
 袋井インター支店 袋井市山科3256-1 ☎(0538)43-0510
 豊橋支店 豊橋市羽根井西町12の13 ☎(0532)32-5730
 静岡ペット霊園 静岡市平沢山王50番地 ☎(054)263-7161

四国曹青主催 第二回禅を聞く会

広報委員 仙井恵久

去る平成二年九月二十五日午後六時より松山市総合コミュニティセンターにおいて、元大関朝潮（若松親方）と漢寿寺住職四国管区教化センター統監、橋崎通元老師を招いて、第三回「禅を聞く会」が開かれました。最初に四国曹青会長、門脇一光君の挨拶の後、南海放送学苑長、高木氏が挨拶されました。



その後、幕が閉じ開いた時は、通元老師を真中に計五人が坐禅を行い、一般の人々にも椅子坐禅を行ってもらいました。今年も、少しでも多くの人に聴講していただくとうと、前回までは昼間に開催して



いたのを夕方に変更しましたが、出足が悪く、逆に聴講していただいた人々はいつもの三分の二に減ってしまいました。来年は、今年の失敗を繰り返さないようにしなくてはならないと、反省させられました。



椅子坐禅の後、橋崎通元老師の話が始まり、この日は、丁度彼岸中であつたので、彼岸にちなんだ話をされ、現代の人々の心が貧しくなっていることを、昔話を混じえながら、指摘されました。通元老師のお話の後、若松親方の話になりました。親方は、登場するなり、水



▲若松親方

一杯飲み干し会場の人々を笑いの渦に巻き込みました。親方の話は、子供の頃から大関になるまでの話で、自分と相撲の出会いから、高砂部屋に入門されるまでの経過を、おもしろおかしく話されました。又、自分が人より早く十両や幕内に昇進できたのは、親方のおかげだといふ、朝潮というしこ名をもらった後、十両に落ちそうになった時は、本当に悩んだ話などをされました。八時半に禅を聞く会が閉幕し、九時十分より春ヶ園において、慰労会が催されました。四国曹青会長挨拶の後若松親方が挨拶され、乾杯の後、各自自由に親方と話をするもの、橋崎通元老師と話をするものや、今回の失敗や反省、今後の禅を聞く会のあり方などで、盛り上がりしました。

又、親方が得意の喉を披露した時は、拍手の嵐となりました。禅を聞く会を終えた興奮もさめやらぬまま、いつしか時も過ぎ、次代をになう若き青年曹青たちは、次会の再会を約束し、慰労会も終わりました。

研修 第六回 吉岡博道

宗門の書「筆痕」

徳翁下

近頃、宗門筆痕についての大著が出版された。成田英道師の「沢木興道遺墨集」である。全三冊の豪華版を一人で成し遂げたとは正に超人である。成田師といえは私は東京オリンピック以前の駒大キャンパスでいかにも出家然とした風格で沢木老師に随身し、仏教学会等の行持に参加していたことなど思い浮かぶ。現在も独身で托鉢行に打ち込んでいるようだが、今回の快挙は宗門筆痕史上の一大巨塔である。解説もあって、沢木老師の書の基本は慈雲尊者にありと証明している。次に「てらスクール」五月号から服部元良師の「名筆余話」が連載されている。私達、書とかかわりのある僧侶の基本とすべきことを服部師が蘊蓄をかたむけて

いたがこれが鑑賞であろう。読者諸師が諸寺において軸物、冊額等に目習いをして少しでも宗門の書になじんで頂ければこの連載も生きるといふもの。成田師といふ、服部師といふ、更に拙稿を加え近頃、宗門では筆痕について関心が高まってきたというべきであろうか。

高、この表中では玄透、良寛といった有名な人があるが皆様方は諸方で拝見のことと故、ここではとりあげず、敢えて黙子、天巖、禅智という宗門筆痕史では新鮮、かつ尊貴の書を紹介する。

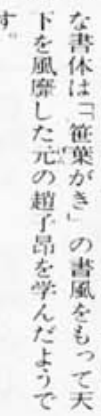
黙子素淵（一六七三—一七四六）は佐賀の人。得度ののち廿一才で月舟宗胡に参学、更に大乗寺徳翁の下で大疑透脱、三十三才で嗣法。住地は西来寺の他、梅長院、慶雲寺、瑞雲庵、野水庵、少林寺、退休寺に住し、延享三年、再住の少林寺で示寂。語録に「黙子和尚語録」がある。「曹全」に掲載されているから是非拝読してほしい。この語録を拝すればいかに黙子が憂宗の念あつく、洞上の宗風の復古是正を主張したかが窺われる。さて黙子の書は稀有である。稀有であるからここに掲げる。私が今迄、拝見したものは東雲寺、松石寺、見性寺秘蔵があるがどれも細字である。

天巖祖暁（一六六七—一七三一）は甲斐の人。徳翁に参じ、嗣法した。住地は法泉寺、江西院、松石寺、秀道院、清涼寺で再住の秀道院で享保十六年、示寂した。

天巖祖暁は黄檗山の門頭に「曹洞滅却」の榜が掲げられたとき、憤慨して壁山に上り、問答一番、その榜を奪取したと伝えられ「甲斐の祖暁」と叢林ではおそれられた。（この伝ともう一つの伝承がある）語録も写本であつたが「曹全」に収録された。この機に祖暁の学人への接得ぶり、特に実参実悟を強調している所を讚仰してほしい。祖暁の字も黙子と同様、珍品である。サインに「甲斐祖暁」としてあるのが特徴である。写真は「竜天軸」である。会下の者に与えて修行の成熟を祈ったのだろう。悲辣な手段でおそれられた祖暁にもこのようなやさしい心づかいがあつたのかと思わせる軸である。竜天軸の他に茶掛け風に一字を大書して、その横へ細字を続けたものを見たことがある。



▲黙子書



▲禅智書（正泉寺蔵）



▲天巖書（正泉寺蔵）

“彫刻のことならなんでも”

株式会社 宗像商会

本店 東京都東村山市富士見町3丁目2番17号 〒198 TEL (0423) 95-8505(代表)
盛岡支店 岩手県盛岡市みたけ5丁目10番48号 〒020-01 TEL (0196) 41-3955(代表)
函館支店 北海道函館市亀田町19-18号 〒040 TEL (0138) 43-8550
松山支店 愛媛県松山市和泉北1丁目5番20号 〒790 TEL (0899) 47-2013

注文仏像・唐木仏具
大木魚・大鑿子
一本手打一枚製鑿子好評発売中—
本当の一枚の材料からたたき上げた鑿子です。
溶接品とは音質が違います。
まずはお問合せ下さい。



『禅へのいざない』(全4巻)

全国曹洞宗青年会編 発刊へ!

このたび、曹洞宗青年会から、八禅文化講座と銘打って出版物を随時刊行していくことにした。

その第一弾として、曹洞宗青年会編『禅へのいざない』(全四巻)が仏教書版元の老舗・大東出版社より近々刊行する予定。

本書は、「インド仏教と禅定」(第一巻)、「中国仏教と禅」(第二巻)、「日本仏教と禅」(第三巻)、「現代社会と禅」(第四巻)と、それぞれのテーマで、インド・中国・日本へと師資相承して伝燈を絶やすことなく今日に至る、禅の思想と歴史を分かり易く叙述する。

本企画は、現在、布教の第一線に立って活躍している宗門青年僧侶が、日常の布教活動において必要とする、基礎知識を提供することをその主目的とし、併せて宗門権信徒及び禅に興味を持つ一般の読者に対して、禅の基礎知識を提供することをめざすもので、このような趣旨により、昨年の段階に企画立案されて、作業がすすめられている。

とりわけ意を尽くした点は、巷に溢れる「禅」や「曹洞宗」についての書物の中には、しばしば誤解を招くような記述に接することがままあるが、そうした誤解を取り除くべく、正しい知識を伝えようとする点にある。

加えて、内容的にもしっかりと、八講座▽や△叢書▽も既にいくつも見られるが、いずれも一般の読者を対象にして企画されたものであろうから、たんに禅についての知識が盛り込まれているにすぎない場合が多く、ともすれば宗門人にとっては切実な問題である。現代社会の中で禅が如何にかかわりあっているか、といった視点は、等閑にされてきたことがあった。

そこで、『禅へのいざない』では「現代社会と禅」のテーマを一冊もうけ、国際化の波が激しい現代社会において、禅の果たすべき課題、延いては我々宗門人のおかれている状況を、現実にも即しながら考えていくことにしている。

また、本書は曹洞宗青年会が独自に企画したものであるから、当然執筆陣も同世代の新進気鋭の研究者ばかりに依頼している。

駒沢大学・愛知学院大学出身の宗門の若手研究者を中心に、若十名、臨済宗・浄土宗等の宗門外の研究者の協力を得て本書はなっている。

本書が、我々青年会の手によって完成することは、すこぶる意義深いものと確信する。そして、これにより当初の企画の趣旨のように、宗門僧侶の日常の布教活動の更なる発展に寄与することを念願して止まない。

以下に、各巻の題目とその執筆者を掲げておくことにする。

第一巻 インド仏教と禅定

● 仏教以前の宗教と思想 (鳥 岩、愛知学院大学)

● 仏教興起の時代背景 (若松浅夫、東方学院)

● 釈尊の生涯とその思想 (池田練太郎、駒沢大学)

● 仏教思想の発展と教団の成立 (鈴木紀裕、愛知高校)

● 南方上座部仏教 (青木宗弘、愛知県・弘禅寺)

● チベット仏教 (西岡祖秀、四天王寺国際仏教大学)

第二巻 中国仏教と禅

● 仏教の伝播 (大松博典、専修大学北上高校)

● 禅の伝来 (佐々木章格、駒沢大学)

● 唐朝禅の展開 (佐藤秀孝、駒沢大学)

● 宋朝禅の繁栄 (中尾良信、花園大学)

● 禅と浄土思想 (落合俊典、華頂短期大学)

● 中国仏教の現状 (中條道昭、駒沢大学)

第三巻 日本仏教と禅

● 鎌倉仏教の成立と禅 (佐藤悦成、愛知学院短期大学)

● 曹洞宗の禅 (石井清純、駒沢大学)

● 道元禅 (鈴木祐孝、山形県・少林寺)

● 登山禅 (鈴木祐孝、山形県・少林寺)

● 登山禅 (鈴木祐孝、山形県・少林寺)

江戸期宗学

● 寺院制度の整備と宗学発展 (志部憲一、曹洞宗宗学研究所)

● 臨済宗の禅 (長谷川昌弘、正眼短期大学)

● 黄檗宗の禅 (岡本貞雄、正眼短期大学)

● 禅と古典文学—説話文学を中心に— (久保田実、駒沢大学高校)

第四巻 現代社会と禅

● 現代思想と禅 (岡島秀隆、愛知学院大学)

● 葬送儀礼と禅 (成河峰雄、愛知学院短期大学)

● 宗教の東西交流 (桐田清秀、花園大学)

● 禅仏教とキリスト教 (桐田清秀、花園大学)

● アメリカ・ヨーロッパにおける禅 (木村登次、東海女子短期大学)

● 現代宗教の諸形態 (竹内堅史、愛知学院大学研究生)

● 文学作品に記された禅 (木村誠治、曹洞宗教化研究所)

● 禅に関する出版物の概況 (伊藤道宣、曹洞宗青年会会長)

● 佐藤悦成、愛知学院短期大学

B六版・並製・四巻セット箱入
各巻平均二〇〇〇頁程度

定価一〇、〇〇〇円(本体九、七〇九円)

四巻セット一括発売(分売はしません)

平成二年十一月刊行予定

大東出版社発行(〒一一三 東京都文京区白山一―三七―一〇 電話〇三―八一六―七六〇七)

尚、曹洞宗青年会では、本書を一割引にて販売いたします。詳しくは、本紙広告、同封のチラシを御覧ください。

本書についてのお問い合わせは、大東出版社営業部までご連絡ください。

いよいよ待望の刊行!
へ禅文化講座へ

禅へのいざない

全四巻

曹洞宗青年会 編
B六判 並製函入
各巻平均二〇〇〇頁
定価一〇、〇〇〇円
(分売致しません)

曹洞宗青年会が綿密に企画し、禅の歴史と思想を分かりやすく解説
布教活動の貴重なハンドブック!!

- 第一巻 インド仏教と禅定
- 第二巻 中国仏教と禅
- 第三巻 日本仏教と禅
- 第四巻 現代社会と禅

「禅へのいざない」曹青会員価格のお知らせ
● 専用振替用紙で前金の御注文の場合に限り1セット9,000円にて頒布致します。振替用紙は大東出版社まで御請求下さい。
振替口座 名古屋 3-53719 曹洞宗青年会出版部
● 尚その際、荷造費・送料として1回のお申し込みにつき、1律400円申し受けます。本広告掲載の他の書籍と一緒に御注文いただいても、送料合計は400円です。

- ◎現代語訳で読む
 - 宝慶記 池田魯参著・四六判・310頁・2,800円
 - 学道用心集 篠原壽雄著・四六判・308頁・2,800円
 - 正法眼蔵随聞記 篠原壽雄著・四六判・454頁・2,900円
 - 永平大清規 篠原壽雄著・A5判・455頁・5,974円
 - 天台小止観 関口真大著・B6判・138頁・1,009円
- ◎読書で座禅をする
 - 詩と禅 小倉玄照著・B6判・224頁・1,236円
 - 禅院おりおり 小倉玄照著・四六判・277頁・1,751円
- ◎敦煌に学ぶ
 - 敦煌仏典と禅(講座敦煌第8巻) 篠原壽雄、田中良昭編・A5判・466頁・7,725円
 - 敦煌禅宗文献の研究 田中良昭著・A5判・724頁・16,377円
- ◎学術叢書禅仏教(A5判)
 - 監修/古田紹欽/鏡島元隆/柳田聖山/鎌田茂雄
 - 唐五代の禅宗 鈴木哲雄著・428頁・7,725円
 - 道元禅師とその周辺 鏡島元隆著・370頁・7,210円
 - 華嚴禅の思想史的研究 吉津宜英著・386頁・7,210円
 - 摩訶止観研究序説 池田魯参著・376頁・8,755円
 - 宋代禅宗史の研究 石井修道著・610頁・13,390円
 - 中国中世仏教史研究 諏訪義純著・326頁・8,240円
 - 日本禅宗史の諸問題 古田紹欽著・306頁・8,240円

表示の価格
は全て
税込

図書目録
呈

株式会社 大東出版社
〒113 東京都文京区白山一―三七―一〇
TEL(八六)七六〇七 FAX(八六)二五八

静岡第1宗務所 志太仏教同志会

元会長 竹田昭三

全国に魁て……戦前から活動

我が曹青を語る (17)

戦前の活動

静岡県第一宗務所管内の西部にある志太仏教同志会は、戦前戦後を通して活動して来たグループです。

此の地は特に大企業もなく、農業が主産業で昔はお米、お茶、ミカン等で生活して来たいわゆる志太平野といった所です。その中に百五十ヶ寺位が点在しており、お互に随分し合い助け合って寺院の運営と布教活動をして来たわけですね。

戦前は主に自己研鑽が主で、法堂法要、声明等に重点を置き、余暇をみては子供会を開き、童話、紙芝居、絵画等を演じて子供達の情操教育の一端を担い、農繁期には托児所等を開き農家の皆さんの手助けをして来ました。そうした中で戦争が始まり一人兵隊に征き、又一人といった具合に段々と人数も減り、昭和十五年頃にはほとんど兵隊に、又残った人達も十七、八年には全員と云ってよい程出征してしまい、長い年月を掛けて根着いた活動も中止されてしまったのです。

戦後の布教

終戦と同時に復員されたものの、何年かの空白と戦後の荒廃によって、なかなか再起出来ずでしたが、一部の人が新しい人達と共に再興し戦前に行なった活動を再度盛り上げ少しずつ範囲を広げ、加えて托児所の手伝いをする御婦人や女子中学生等に舞踊、童話、ゲーム等の指導をして農繁期の托児所を乗り越えて行きました。勿論会員の研鑽も忘れず法要、声明を始め漢詩の勉強会も開講致しました。社会の情勢が少しずつ変わり、落付きを増し一般家庭の生活が安定して来た昭和三十三年頃までは、若い青年僧の力を発揮して地域社会に密着した布教を繰返して来たのですが、増々高度成長期に入り幼児教育も幼稚園、保育園が次々開園され、会員の中にも何人か寺院境内を開放して園舎を造り、園長となって幼児教育に専念されました。

そうした中で会員数も減り始め、年と共に年齢層も高くなり、若々しい青年僧

がなくなってきました。何とか後継者を育てて行かねばと会員が話し合っている内に、徒弟研修会を開いて小学生、中学生、高校生を集めて、着物の着方、足袋のはき方、大衣の着方、御経の読み方等を会員が一緒になってお務めしたらという事になり、少なくなった会員が力を合わせて取り組む事に決まりました。当時各寺院ではなかく寺院の子供でも白衣を着せて朝課を一緒にとはゆかず、この様な講習会を開いて下さるならと大抵びで参加者も多く充実した二泊三日の講習会を開くことが出来ました。子供達も初めて白衣を着る事に抵抗があるかと思いましたが、集まった皆さんが同じ白衣として先生方(会員)が白衣ですのて安心なのかほとんど抵抗なく生活出来ました。二回、三回と重ねて行く内に内容も充実し、高校生の師匠さんは立職も修行させてほしいと云う要望があり、もう一日延ばして三泊四日の講習会になった事も何度かありました。



▲第35回寺院徒弟研修

その後五回、十回と重ねている内に今度は徒弟が減りはじめ、高校生が勉強に、部活等で参加出来なくなり、次いで中学生が抜けるという状態で人数が減りました。所が各寺院では女の子も寺院生活に馴染簡単な御経位は読めても良いのではと女の子の参加が増え、男子組と女子組と二組を同時に研修する事になり、何年か続きました。此の徒弟研修会に他宗(時宗)の徒弟が参加して師匠が大変感心して三年後には本山の遊行寺に於て自派な徒弟研修会を開いたと聞いております。こうして志太の徒弟研修会は今も続いており

今年で第三十五回を迎え、途中女子の参加、又在家の子供の参加が増えた関係で別に研修することにして、子供達の集いとしてこちらは第八回になり百二十人参加を打ち切るという状態です。こうして徒弟研修会、子供達の集いは現在も盛会に行っておりです。

その間昭和四十一年頃には会員数も減り徒弟研修も子供達が減り始めた頃、会費も集まりにくくなり、又年も高くなつたので、この際青年を抜いて志太仏教同志会と改め上限を五十五才として、何とか持続をはかり会員の気持ちを結果して行くにはどうすれば良いか相談するはめになりました。そんな中で各寺院は梅花流詠歌を取り入れ、講数も年々増えておりました。そこで会員の研修を含めて終戦後あまり行われていない授戒会、梅花流を取り入れて行つたらという事になりました。幸い会員の中には梅花流の師範が何人か居た関係で差定も作り易く昭和四十三年春に初めて詠歌授戒会、そして、教区の老師方の御協力を得て、会員が授戒会を身を持って体験、先輩達の指導で成弟六百五十人の授戒会が無事修行されたのであります。



▲平成元年授戒会

大成功を取って会員の気持ちが一つになり、此の次は何をどう会う度に相談をしていく内に、前記徒弟研修会の一期生、二期生、三期生の徒弟が大学を卒業、本山安居を了えて志太に帰って来て次々と同志会の会員となり、人数も増え順調に授戒会も会員寺院等で八回を数えております。

- 役員紹介
- 会長 石橋晋哉
 - 副会長 長尾明孝
 - 庶務 鈴木舜光
 - 会計 磯田和雄
 - 近藤宗彦



▲2泊3日の子供禪の集い

して活躍するには何をすれば良いのか折にふれ相談して来ましたが、先ず自分の研修が第一にと考えられ、当時の会長の発案で講師を拝請して、僧侶として、又住職として実際に役立つ勉強を始めたのです。第一宗務所管内を始め他の宗務所からも聴講があり常に百人を越えました。何回か重ねて現職研修を行っている中で是非寺族も勉強して住職を補佐出来るようにと寺族研修も併せて実施したので、これも又毎回百人を越す盛況でした。その後我が宗門でも各宗務所が実施する様になり、当第一宗務所では志太が徒弟研修を、中部、東部が現職研修、寺族研修を行っております。

こうして私達の同志会は最盛期を迎える事が出来ましたが聊か余裕が出来たこともあって、この間に会員有志で印度四大聖地、中国天童山、少林寺、シルクロード等拝参して見学させて頂きました。現在会員数も六十余人となり、自己研修を主軸に、寺院の運営と社会教化に参加して行くかを常に模索しながら、会長を中心此の地域になくはならない青年僧の集団となって、今後も活躍して行くものと思っております。

法要の際にご本堂などで

妙法蓮華経
●安楽品 ●寿量品 ●普門品



修証義

5冊組 ¥6,000
10冊組 ¥11,000

曹洞宗日課経大全



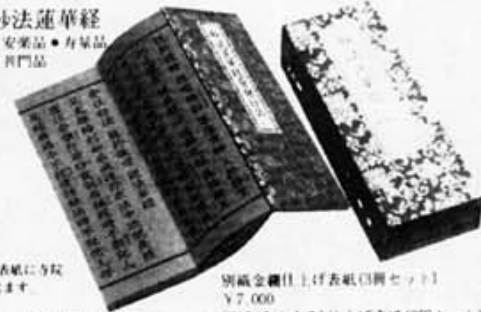
100冊未満・1冊につき ¥500
100冊以上の場合 ¥480

修証義ミニ本



100冊以上・1冊につき ¥80

●500冊以上、書表紙に写本を納込が出来ます。



別紙金剛仕上げ表紙3冊セット ¥7,000
洋紙(きぬちみ)仕上げ表紙(3冊セット) ¥5,000

●お申し込みは (株)タイキ 〒538 大阪市鶴見区今津中3丁目9番6号 TEL:(06)969-71910 FAX:(06)969-7194

(※各冊品もあり、※修証義との組合せも出来ます。)

尼僧団便り

「生きる」と「死ぬ」

寸感

総持寺祖院 鷲見透玄

人間が生きているということには一つの生き方があると思う。その一つは、社会人として世の中に生きる生き方であり、これは職業人として世の中に自分を生かす生き方であるといつてもよいと思う。今一つの生き方は、人間が自然として、大自然、宇宙の定めの中に生きる生き方である。この生き方は、自然法則の中に自己の生命を生かす生き方である。

然し、人間が一般に生きることを考えている生き方は、自分は職業人として世の中にどう生きるかということであって、そのために、夫々の職業が行われ、財を蓄えたり、地位や名誉に悩み、或は立派な住居を造築することのように考えられているが、人間が生きているということが、単にこのように職業人として、社会人として生きるという生き方は、実は人間がそれぞれの目的のために生きようとして、実はそれぞれの目的のために死んでいる生き方となっているのではないだろうか。これを別の言葉でいえば、人間が喰うために生きようとして、逆に喰うために死んでいる生き方である。人間は一般に喰うために苦悩し、喰うために死んでゆく生き方をしているのではないか。そうではなくて、自分は喰うためではなくて仕事のために生きている、といつてみたところで、これは例外なく仕事のために死んでいる人生である。だが今一つの生き方は、人間が、自分は自然であり、職業人である前に、大自然（法爾自然）の掟の中に、宇宙の定めの中に生きている自然であることに気付く、まず自然法則の中に自己の生命を生かすという生き方であり、人間が生かすために生きる生き方である。いづれにしても、人間は、単に職業人として、生きるために死ぬ生き方をするか、職業人である前に、まず

自然界として、生きるために生きる生き方をするか、どちらかの生き方を採らなければならぬ。人はいくら平凡に生きてもすむし、深刻に生かれば限りもない。然し安易な平凡の中にあるより、苦ししい深刻の中に人生の真味を汲みとらなければ、幸福の深さが解らないのである。影のように生れて、影のように死ぬ、そして何も残らぬ。言葉も行為もただ空虚の忘却の中に消え去る。このニヒルの限界を見つめる心。そこに閃く一瞬の美に人間は限りない郷愁を投げかける。この生命の謎に、宗教は何を答えているか？ 絶対に甘い期待を心を許してはならない。それがこの年に至って、漸く判ってきたようだ。あくまでも厳しく、自己の迷宮を見つめる孤独の立場に、人間存在の意義を探らねばならない。そして、働かざる今日の生命の現実を感謝したい。(一九九〇、七、五)

第三十二回

輪番総会報告

六月八、九日、北陸ブロック当番で富山県宇奈月町、宇奈月グランドホテルを会場に開催され、百六十余名の団員が参加した。

淡茶の作務衣の老僧（館全鏡師）が杖をつき乍ら、ホテルの舞台を須弥壇に作つた法堂の飾りつけを指揮しておられた。釈迦三尊像の掛軸を中心に献茶湯、お供之物、供花そして大きな供え花二対。「エンナモネエ」「ハヨハヨと気をもんだつたってネエ」「大体、形だけ出来たからツチャ、ヤツシャヤツシャ」「あんた！お茶済んどらん方、おちゃ」

◆佛祖諷経 午前十時
団員物語者追悼諷経
団員八十歳長寿表彰授与（十二名）
代表 山崎禪竜師

◆第一部 開会式
団長挨拶 有意義で思い出深い会にして欲しい。総持寺三松閣落慶法要、地蔵講式厳修の折は御随喜有難うございませした。奉修の依頼を受けてから短期間だった為、配役等全地区の皆様にもならず申す所なかつた。しかし雪の中ならしに集つていただき有難かつた。全国から百名の随喜の皆様御加担とご相愛を感謝申し上げる。総持寺監院老師からもお礼状を頂いている。高令化になつたがここで願せず団結して教化活動、正法興隆に活動して頂きたい。

来賓挨拶 富山宗務所長 佐藤博道老師
修証義の「同時というは不異なり」とは、衆生を善道に導くことは和光同塵を本意とする、大慈悲心をもって他の一切のものを包容することである。初心に帰る道心をもって教化指導してほしい。自分もこれを機縁に豊かな心をもって諸縁に当たりたいと思う。

地元支部長挨拶 佐々木妙瑞師
春は緑、秋は紅葉、冬はスキーの観光地。一年間かかって誠心誠意準備を進めて来たが不都合な所が多いと思うが御寛容の程を。

(司会 鉄柱祖岳師)
国歌斉唱、閉会の辞、記念撮影にて第一部は終了。

◆第二部 記念講演
「豊かな心」盛水宗興老師
終始端正な姿勢で語られる老師の宗派を超えたお話に会員諸師は感銘深く拝聴した。

◆第三部 総会
午後三時より総会に入り、議長に京都の下山賢光師、副議長に愛知の丹羽慈光師が選出され議事に入る。
本部経過報告と監査報告
平成二年度事業計画案

◆神の集い。第二十六回神の集い信濃結集は尼僧団主催で例年通り無量寺で行われる。八月二十四日、二十六日の二泊三日、講師は天祐寺住職、須田道輝老師、講話は「学道の用心」

◆双葉のつどい。二十年続いた切れ目と尼僧さんの子弟が少なくなったことと主催者であった佛母会が開散したため本年度は中止。替わりにミニ双葉が行われる

◆第一部 開会式

(本部に連絡すれば補助金を出す)
◆焼香師(十月十四日、大本山総持寺)副団長 高畑良田師に決定。
◆大本山総持寺 御移東八十年記念法要(平成二年十月八、九、十日、三日間)に接客随喜三十名を頼まれている。各支部割当てをさせて頂いたので御協力よろしくお願ひします。新潟五名 東京三名 石川二名 愛知七名 長野六名 富山七名 名簿提出等お願ひすると思うが、その時はよろしく。

◆平成三年度輪番総会は新潟県、日下準備中で日程は六月四、五日で場所は瀬波の子定。

◆収支予算案と監査報告。
◆育英委員会報告
三僧堂に育英資金として十三万円ずつ渡された。

◆ルンビニ園御挨拶 恒田仙英師
いつも後援会費を頂いて有難うございませ。お陰様で只今は物質的には大変豊かになりました。ただ恵まれないのは愛情という子供達です。明日のお出でを一生懸命お待ちしております。

◆各支部活動状況 チャリティ茶会、法式、詩偈、修証義、布教、經典解説の講習会。歳末助け合い、ミニ双葉と団員の多い地域は活発のようです。

◆定刻に総会が終り、土地の民謡踊のサーピスを見乍ら豪華な夕食をいただき散會。

◆観光、宇奈月温泉駅八時半出発のトロッコ電車(小さな車十三両つなぎ)に乗りこみ、ガタガタキーキーと黒部峡谷の渓流に沿って上っていく。小さな座席に四人ずつ向かい合せて座り、緑の木々に深い水の音に花に歓声を上げたり食べた眠りたり。「ミツチャ、ミツチャ」の声を耳に残し乍ら富山団員の方々と別れ半ば解散し、私達はルンビニ園へとバスに乗った。

◆立派な大きな立物、集會室に入ると正面に須弥壇の前に園児が座つていて、すぐに心経が始まる。お経のあと、衆生無辺誓願度、煩惱無尽誓願断、法門無量誓願学、佛通無上誓願成」と称えた幼な子の声が忘れられない。二挨拶に続いて合唱、踊りなどの披露。あどけない姿に鼻をすする音などしきりであった。お茶お菓子を呼ばれ、お元気に迎えて下さった小島賢道老師との挨拶もそこそこに外に出ると、子供達が外に待っている、一人一人にお別れしてバスに乗って富山駅に出る。

暖かいふれあいだった三十二回輪番総会は無事に終わった。
「おたより」第九十六号より

輪番総会の様子



尼僧史 (五) 朝鮮仏教の尼僧

今まで印度、中国の尼僧について見てきましたが、今回は、我が国に直接仏教を移入し密接な関係を有する朝鮮仏教を見てみる。

朝鮮に仏教が伝来したのは、高句麗の第十七小獸林王の二年(三七二)中国の前秦王堅が、使者及び僧順道を派遣し、佛像、経巻を高句麗に送って来たのが、最初であるとされている。又これ以前に伝わったという異説もある。百濟には第十五統流王の元年(三八四)印度僧摩羅難陀により中国の晋から伝えられ、更に新羅には、第二十三法興王と十五年(五二八)に至って高句麗から沙門墨胡子が来て仏教を伝え、ここに初めて三宝の興隆を見たのである。更に十余年を経て、第二十四代眞興王(五四〇、五七五)の時に至り、奉仏ますます篤く、皆争って帰依し王の五年には興輪寺が落成し、ここに初めて人の僧となることを許した。

また眞興王自らも晩年に至って剃髪して僧衣をまとい、自ら法雲と号したが、更に王姫も亦これに倣い、落髮して尼僧となり、自ら創建した所の水興寺に住したのである。これが実に朝鮮仏教における最初の尼僧であり、最初の尼寺である。朝鮮における禪宗の初転は法朗が新羅第二十七代善徳王(六三三、六四六)の時代に入唐し、中国禪宗の四祖大医道信師の弟子となり、帰朝して禪を伝えたことに始まる。次いで法朗の弟子禪行が入唐して北宗禪を伝え、それより後道義が入唐して南宗禪を伝えている。朝鮮に禪宗が初伝してより六十余年を経て名臣金瘦信の夫人が落髮して尼僧となり、法淨と号したと云われ、これが恐らく朝鮮禪宗における最初の尼僧であろう。

この朝鮮より我が国へ仏教が伝わるわけだが、一般には欽明天皇十三年(五五三)に百濟聖明王が使を遣わして仏像、經論を献上したのが最初とされている。第三十一代義慈王の十五年(六五五)法明尼が日本に渡来、帰化して内大臣藤原鎌足の為に維摩経を説き、其の病を治して日本における維摩会の起因となったことは、わが国史上に有名な事である。



◆焼香師(十月十四日、大本山総持寺)副団長 高畑良田師に決定。
◆大本山総持寺 御移東八十年記念法要(平成二年十月八、九、十日、三日間)に接客随喜三十名を頼まれている。各支部割当てをさせて頂いたので御協力よろしくお願ひします。新潟五名 東京三名 石川二名 愛知七名 長野六名 富山七名 名簿提出等お願ひすると思うが、その時はよろしく。

◆平成三年度輪番総会は新潟県、日下準備中で日程は六月四、五日で場所は瀬波の子定。

◆収支予算案と監査報告。
◆育英委員会報告
三僧堂に育英資金として十三万円ずつ渡された。

昭和62年度全国曹洞宗青年会意識調査—報告

4. 満年齢別 * 20. 日頃している髪型

	標本数	淨髮している	坊主列している	角刈をしてい スポーツ刈・ツ ツイ	る 角刈をしてい る	て いる 風 の 髪 型 を し て い る	か け て い る バ ー マ を	首 筋 ま で あ る い は そ れ 以 上 の 髪 型 を し て い る	そ の 他	無 回 答
全 体	100.0 1193	45.3 541	41.9 500	4.5 54	6.1 73	0.2 2	-	0.4 5	1.5 18	
20～24歳	100.0 40	75.0 30	12.5 5	5.0 2	7.5 3	-	-	-	-	
25～29歳	100.0 160	33.8 54	48.8 78	5.0 8	8.1 13	1.3 2	-	1.3 2	1.9 3	
30～34歳	100.0 236	43.2 102	47.5 112	2.5 6	4.7 11	-	-	0.4 1	1.7 4	
35～39歳	100.0 336	43.2 145	44.3 149	5.4 18	5.4 18	-	-	0.3 1	1.5 5	
40歳以上	100.0 408	50.2 205	37.7 154	4.7 19	6.1 25	-	-	0.2 1	1.0 4	

4. 満年齢別 * (ル) 寺院の行事は簡素化すべきでない

	標本数	賛成	やや賛成	ど な い ど ち ら で も	や や 反 対	反 対	無 回 答
全 体	100.0 1193	32.2 384	25.7 307	24.6 293	10.2 122	5.2 62	2.1 25
20～24歳	100.0 40	27.5 11	27.5 11	32.5 13	7.5 3	-	5.0 2
25～29歳	100.0 160	31.3 50	23.1 37	28.8 46	10.6 17	4.4 7	1.9 3
30～34歳	100.0 236	30.1 71	24.6 58	28.8 68	11.9 28	4.2 10	0.4 1
35～39歳	100.0 336	30.4 102	27.4 92	25.6 86	10.7 36	4.5 15	1.5 5
40歳以上	100.0 408	35.0 143	26.5 108	19.6 80	8.6 35	6.9 28	3.4 14

4. 満年齢別 * (ロ) 寺格・教師資格は必要

	標本数	賛成	やや賛成	ど な い ど ち ら で も	や や 反 対	反 対	無 回 答
全 体	100.0 1193	15.0 179	21.9 261	26.8 320	14.2 169	20.4 243	1.8 21
20～24歳	100.0 40	12.5 5	17.5 7	37.5 15	7.5 3	20.0 8	5.0 2
25～29歳	100.0 160	14.4 23	23.1 37	32.5 52	15.0 24	14.4 23	0.6 1
30～34歳	100.0 236	13.1 31	21.2 50	26.3 62	16.1 38	22.9 54	0.4 1
35～39歳	100.0 336	13.7 46	22.9 77	29.8 100	14.3 48	18.2 61	1.2 4

4. 満年齢別 * (カ) 伝統維持のため肉系相禁が必要

	標本数	賛成	やや賛成	ど な い ど ち ら で も	や や 反 対	反 対	無 回 答
全 体	100.0 1193	9.6 115	18.4 220	46.4 553	12.2 145	11.2 134	2.2 26
20～24歳	100.0 40	7.5 3	12.5 5	62.5 25	5.0 2	7.5 3	5.0 2
25～29歳	100.0 160	6.3 10	15.0 24	55.0 88	11.9 19	11.3 18	0.6 1
30～34歳	100.0 236	5.9 14	16.1 38	50.4 119	12.3 29	14.0 33	1.3 3
35～39歳	100.0 336	11.3 38	20.5 69	44.6 150	11.9 40	10.1 34	1.5 5
40歳以上	100.0 408	12.0 49	20.1 82	40.9 167	12.3 50	11.0 45	3.7 15

訪印納経使節団 団員募集

【期 日】平成2年11月21日(水)～12月2日(日)12日間
【旅 費】387,000円 大阪空港発着

今春、インドクシナガラ茶毘塚近くに、念願の曹洞宗納経納骨涅槃堂が完成しました。全国的に“こころのやすらぎ運動”として写経運動が展開されております。このお写経を仏教徒究極のご聖地でありますお釈迦さま入寂の地にご参拝の上、ご奉納されますようおすすめ申し上げます。ご納骨の方にも勝縁とご評価をいただいております。お檀家様におすすめ賜りますようお願い申し上げます。詳しくは下記ピーエス観光へお問合せ下さい。 -クシナガラ涅槃堂建立維持会-

【日程表】

11/21(水)大阪(午後)→デリー 11/22(木)祇園精舎参拝
11/23(金)クシナガラ涅槃堂参拝、涅槃堂納経法要
11/24(土)ルンビニ釈尊生誕地参拝 11/25(日)鹿野苑参拝
11/26(月)ベナレス・ガンジス河 11/27(火)ブダガヤ成道地参拝
11/28(水)ラジギール霊鷲山 11/29(木)バトナ→デリー
11/30(金)アグラ、タジマハール観光 12/1(土)デリー観光
デリー(夕)→12/2(日)大阪到着

- 10名様から団体が組めます。
- 2名様から個人・グループ旅行ができます。
- インド・中国仏教関係のツアーはピーエス観光へご下命下さい。

主 催 アショカツアーズ(株)ピーエス観光 大阪 444-2221 東京(03)563-2691 担当・堤・新木 名古屋(052)261-8381

4. 満年齢別 * 25. 後継者不足の原因・理由

	標本数	子供がいない	弟がいない 子になる人	経済的に不安	がある	ない 僧形が好まれ 寺院の生活	ない 僧職に魅力が	その他	無回答
全 体	100.0 1193	4.5 54	12.5 149	26.7 318	18.1 216	25.6 306	8.9 106	3.7 44	
20~24歳	100.0 40	-	15.0 6	2.5 1	35.0 14	35.0 14	7.5 3	5.0 2	
25~29歳	100.0 160	6.9 11	12.5 20	20.6 33	27.5 44	23.1 37	6.3 10	3.1 5	
30~34歳	100.0 236	5.9 14	14.0 33	23.7 56	20.3 48	25.0 59	8.1 19	3.0 7	
35~39歳	100.0 336	4.5 15	12.2 41	26.8 90	13.7 46	27.1 91	12.2 41	3.6 12	
40歳以上	100.0 408	3.4 14	12.0 49	32.4 132	15.0 61	25.5 104	8.1 33	3.7 15	

4. 満年齢別 * 26. 後継者不足の現状について

	標本数	祖師に 対して	申し訳が ない	近い将来 後継者 を決めて いる	と 思 っ て い る	全 体 的 に 一 般 的 な 傾 向 が な い	で 仕 方 が な い	子 供 の 意 思 を 重 ん じ な い	ば な ら な い	進 ま な い 子 供 を 住 職 に す る の は 気 が な い	その他	無回答
全 体	100.0 1193	16.7 199	10.6 127	22.3 266	25.7 307	4.4 52	12.3 147	8.0 95				
20~24歳	100.0 40	17.5 7	-	32.5 13	35.0 14	2.5 1	2.5 1	10.0 4				
25~29歳	100.0 160	18.1 29	5.6 9	26.3 42	30.0 48	2.5 4	10.6 17	6.9 11				
30~34歳	100.0 236	15.3 36	7.2 17	25.4 60	28.0 66	2.5 6	12.7 30	8.9 21				
35~39歳	100.0 336	12.8 43	9.8 33	21.4 72	26.8 90	3.6 12	16.4 55	9.2 31				
40歳以上	100.0 408	20.6 84	16.4 67	19.1 78	20.8 85	6.4 26	10.5 43	6.1 25				

第八期全国曹洞宗青年会

本部役員		評議		組織委員会		事業研修委員会		総合企画委員会	
会長	伊藤道宣(愛知三)	評議員(続き)	桂川道雄	委員長	平清水公宣(山形一)	委員長	村田和彦(京)	委員長	村松延行(静岡三)
副会長	伊東充伸(島根二)	副委員長	尾谷茂樹	副委員長	山田邦博(愛知三)	副委員長	宮崎良章(京)	副委員長	稲垣智正(福島)
事務局長	谷本俊昭(岩手)	委員	長谷川寛孝(静岡三)	委員	栗林文英(新潟)	委員	笠神雅彦(宮)	委員	鈴木芳巳(愛知三)
事務局長	渡津法晃(愛知二)	委員	岡野聖弘(京)	委員	酒井秀瑞	委員	中村哲元(長崎)	委員	鈴木芳巳(愛知三)
庶務局長	田中良宗(北海道二)	委員	中村哲元(長崎)	委員	遠藤和光(尼僧団)	委員	矢野通元(四国)	委員	吉津弘道(京)
監査	鎌原泰彦(大阪)	委員	文殊靖彦(佐賀)	委員	酒井秀瑞(和歌山)	委員	矢野通元(四国)	委員	吉津弘道(京)
顧問	清水昭信(四国)	委員	酒井秀瑞(和歌山)	委員	酒井秀瑞(和歌山)	委員	矢野通元(四国)	委員	吉津弘道(京)
理事	小原宣弘(茨城)	委員	酒井秀瑞(和歌山)	委員	酒井秀瑞(和歌山)	委員	矢野通元(四国)	委員	吉津弘道(京)
東海	小島泰道(岐阜)	委員	酒井秀瑞(和歌山)	委員	酒井秀瑞(和歌山)	委員	矢野通元(四国)	委員	吉津弘道(京)
近畿	桂川道雄(滋賀)	委員	酒井秀瑞(和歌山)	委員	酒井秀瑞(和歌山)	委員	矢野通元(四国)	委員	吉津弘道(京)
中国	岩田泰成(島根二)	委員	酒井秀瑞(和歌山)	委員	酒井秀瑞(和歌山)	委員	矢野通元(四国)	委員	吉津弘道(京)
四国	村上俊弘(四国)	委員	酒井秀瑞(和歌山)	委員	酒井秀瑞(和歌山)	委員	矢野通元(四国)	委員	吉津弘道(京)
九州	村上俊弘(四国)	委員	酒井秀瑞(和歌山)	委員	酒井秀瑞(和歌山)	委員	矢野通元(四国)	委員	吉津弘道(京)
北越	西村和光(熊本)	委員	酒井秀瑞(和歌山)	委員	酒井秀瑞(和歌山)	委員	矢野通元(四国)	委員	吉津弘道(京)
東北	三國典照(新潟)	委員	酒井秀瑞(和歌山)	委員	酒井秀瑞(和歌山)	委員	矢野通元(四国)	委員	吉津弘道(京)
東信	井川悦導(尼僧団)	委員	酒井秀瑞(和歌山)	委員	酒井秀瑞(和歌山)	委員	矢野通元(四国)	委員	吉津弘道(京)
評議	未加盟	委員	酒井秀瑞(和歌山)	委員	酒井秀瑞(和歌山)	委員	矢野通元(四国)	委員	吉津弘道(京)
東京	未加盟	委員	酒井秀瑞(和歌山)	委員	酒井秀瑞(和歌山)	委員	矢野通元(四国)	委員	吉津弘道(京)
神奈川	松田宏道	委員	酒井秀瑞(和歌山)	委員	酒井秀瑞(和歌山)	委員	矢野通元(四国)	委員	吉津弘道(京)
埼玉	福田竜倫	委員	酒井秀瑞(和歌山)	委員	酒井秀瑞(和歌山)	委員	矢野通元(四国)	委員	吉津弘道(京)
群馬	休内謙三	委員	酒井秀瑞(和歌山)	委員	酒井秀瑞(和歌山)	委員	矢野通元(四国)	委員	吉津弘道(京)
栃木	山内謙三	委員	酒井秀瑞(和歌山)	委員	酒井秀瑞(和歌山)	委員	矢野通元(四国)	委員	吉津弘道(京)
茨城	北条正興	委員	酒井秀瑞(和歌山)	委員	酒井秀瑞(和歌山)	委員	矢野通元(四国)	委員	吉津弘道(京)
千葉	青藤孝光	委員	酒井秀瑞(和歌山)	委員	酒井秀瑞(和歌山)	委員	矢野通元(四国)	委員	吉津弘道(京)
山梨	小林孝道	委員	酒井秀瑞(和歌山)	委員	酒井秀瑞(和歌山)	委員	矢野通元(四国)	委員	吉津弘道(京)
静岡	鈴木喜順	委員	酒井秀瑞(和歌山)	委員	酒井秀瑞(和歌山)	委員	矢野通元(四国)	委員	吉津弘道(京)
愛知	浅井正英	委員	酒井秀瑞(和歌山)	委員	酒井秀瑞(和歌山)	委員	矢野通元(四国)	委員	吉津弘道(京)
岐阜	戸田恒敏	委員	酒井秀瑞(和歌山)	委員	酒井秀瑞(和歌山)	委員	矢野通元(四国)	委員	吉津弘道(京)
三重	石崎正信	委員	酒井秀瑞(和歌山)	委員	酒井秀瑞(和歌山)	委員	矢野通元(四国)	委員	吉津弘道(京)
滋賀	村松宣雄	委員	酒井秀瑞(和歌山)	委員	酒井秀瑞(和歌山)	委員	矢野通元(四国)	委員	吉津弘道(京)
京都	伊藤正康	委員	酒井秀瑞(和歌山)	委員	酒井秀瑞(和歌山)	委員	矢野通元(四国)	委員	吉津弘道(京)
大阪	永田勝久	委員	酒井秀瑞(和歌山)	委員	酒井秀瑞(和歌山)	委員	矢野通元(四国)	委員	吉津弘道(京)
奈良	板倉法仁	委員	酒井秀瑞(和歌山)	委員	酒井秀瑞(和歌山)	委員	矢野通元(四国)	委員	吉津弘道(京)
和歌山	西尾善英	委員	酒井秀瑞(和歌山)	委員	酒井秀瑞(和歌山)	委員	矢野通元(四国)	委員	吉津弘道(京)
鳥取	朝日耕道	委員	酒井秀瑞(和歌山)	委員	酒井秀瑞(和歌山)	委員	矢野通元(四国)	委員	吉津弘道(京)
徳島	三孝	委員	酒井秀瑞(和歌山)	委員	酒井秀瑞(和歌山)	委員	矢野通元(四国)	委員	吉津弘道(京)
香川		委員	酒井秀瑞(和歌山)	委員	酒井秀瑞(和歌山)	委員	矢野通元(四国)	委員	吉津弘道(京)
高松		委員	酒井秀瑞(和歌山)	委員	酒井秀瑞(和歌山)	委員	矢野通元(四国)	委員	吉津弘道(京)
愛媛		委員	酒井秀瑞(和歌山)	委員	酒井秀瑞(和歌山)	委員	矢野通元(四国)	委員	吉津弘道(京)
高知		委員	酒井秀瑞(和歌山)	委員	酒井秀瑞(和歌山)	委員	矢野通元(四国)	委員	吉津弘道(京)
福岡		委員	酒井秀瑞(和歌山)	委員	酒井秀瑞(和歌山)	委員	矢野通元(四国)	委員	吉津弘道(京)
佐賀		委員	酒井秀瑞(和歌山)	委員	酒井秀瑞(和歌山)	委員	矢野通元(四国)	委員	吉津弘道(京)
熊本		委員	酒井秀瑞(和歌山)	委員	酒井秀瑞(和歌山)	委員	矢野通元(四国)	委員	吉津弘道(京)
大分		委員	酒井秀瑞(和歌山)	委員	酒井秀瑞(和歌山)	委員	矢野通元(四国)	委員	吉津弘道(京)
宮崎		委員	酒井秀瑞(和歌山)	委員	酒井秀瑞(和歌山)	委員	矢野通元(四国)	委員	吉津弘道(京)
鹿児島		委員	酒井秀瑞(和歌山)	委員	酒井秀瑞(和歌山)	委員	矢野通元(四国)	委員	吉津弘道(京)
沖縄		委員	酒井秀瑞(和歌山)	委員	酒井秀瑞(和歌山)	委員	矢野通元(四国)	委員	吉津弘道(京)
北海道		委員	酒井秀瑞(和歌山)	委員	酒井秀瑞(和歌山)	委員	矢野通元(四国)	委員	吉津弘道(京)
特別委員会	全日仏青係	委員	酒井秀瑞(和歌山)	委員	酒井秀瑞(和歌山)	委員	矢野通元(四国)	委員	吉津弘道(京)
出版係		委員	酒井秀瑞(和歌山)	委員	酒井秀瑞(和歌山)	委員	矢野通元(四国)	委員	吉津弘道(京)